

平成29年度 青少年問題を考える地域懇話会

当協会では市町村民会議の活動を支援するため、地域の青少年問題について、有識者と地域の活動指導者等が意見交換等を行う「青少年問題を考える地域懇話会」を開催しています。29年度は、乙部町（7月）、釧路町（11月）の2箇所、それぞれの青少年育成市町村民会議と共催し開催しました。

【乙部町】テーマ「子どもたちを取り巻く現況と地域のかかわりについて」

～地域で大人が何をすべきか～

●日 時 平成29年7月6日(木) ●場 所 乙部町民会館

●共 催 乙部町青少年健全育成懇談会、乙部町教育委員会

●話題提供・助言者

「地域と子どもたちと、未来のために ～私たちができること～」

函館市地域交流まちづくりセンター長 丸藤 競 氏

●コーディネーター

檜山教育局教育支援課社会教育指導班主査 松浦 賢一 氏

●概 要

話題提供では、今の若者は、「自分のためより、誰かのため」という意識を持っており、これからの時代にふさわしい社会の仕組みをデザインしていく能力が期待できる。だからこそ、若者や地域の人が活躍できる町をつくり、「夢を共有」し、「地域のために本当に必要なこと」の実現に全力を尽くす。時間はかかるが、未来志向でピクピクチャーを描き、行動することが大切だというお話がありました。

意見交流では、参加者が6つのグループに分かれ、「今、子どもたちのために、地域で大人が何をすべきか」というテーマで意見交流をしました。各グループからは、地域ぐるみで挨拶のできる子どもを育てたい、人との出会いに感動する体験をさせたい、子どもたちと交流の場を多くつくりたい、地域の人との関係を深めるなどの意見が出されました。参加者からは「普段、話ができない方と話せてよかった」という感想もありました。

丸藤氏からは、「大切なのは、こうした意見を交流する場をつくること。その中で、小さなことや出来ることから始めることが大切。また、出会い・話すことでアイデアが出たら、さらに大切なことは、『発信すること』。それが新たな出会いにつながる。この連続したサイクルが地域の中でできれば、地域は一步前に進み、素晴らしい未来の地域づくりにつながる」という助言がありました。



【釧路町】テーマ「子どもの貧困について」～地域の大人が何をすべきか～

●日 時 平成29年11月11日(土) ●場 所 釧路町公民館

●共 催 釧路町青少年健全育成協会、釧路管内北海道青少年育成運動推進指導員会

●話題提供・助言者

「子どもの貧困について

～釧路管内における子どもの貧困の状況と課題について～」

北海道教育大学釧路校講師 木戸口 正宏 氏

●コーディネーター

釧路教育局教育支援課社会教育指導班主査 柴田 快憲 氏

●概 要

話題提供では、北海道の子どもの貧困率が全国5番目と厳しい状況にあり、これは、地域産業や経済の衰退状況による影響だけでなく、子どもや青年の安全・安心な「居場所」がない、子育て世帯の「孤立」、また、子どもや青年が自身の人生への「見通し」を持つことが難しい社会状況にあることなどが要因になっている。今後は、貧困によって子どもや家族が直面する「困難」を複合的に折り重なったものとして捉え、考える必要がある。問題解決には、社会全体が「人間らしく」暮らせる生活保障制度の確立、子どもや家族の声に耳を傾ける、さらに仲間やつながりを大切ににするなどの視点が求められるというお話がありました。

意見交流では、参加者が5つのグループに分かれ、地域で子どもたちを育てるために「今、子どもたち一人一人に必要なもの」、「そのために地域で大人は何をすべきか」という二つの柱で意見交流をしました。

各グループからは、「貧困」という言葉をもっと捉えやすくする必要があるという意見や、子ども食堂を始めたが資金面で苦労した。そこで「大人食堂」を始め、その利益で運営を続けていること。大人食堂に来てくれる大人が、子供たちの支援に繋がっているなどが発表されました。

木戸口氏からは、「意見交流から、子どもの居場所がない社会は、大人にとっても居場所やつながりがない社会だということを改めて感じ、また、大人食堂で大人が繋がったように、地域の人と人をつなげる取り組みが必要と痛感した。そして社会教育の役割として、子どもを含めた異世代の交流を作り上げることが、地域を暮らしやすくしていく大事な所につながる」という助言がありました。

